

頂上風景

快晴無風気温13℃最高の日和だ。
剣岳の頂上は岩峰で狭いが、東側斜面の広がりや大きさが、槍ヶ岳や奥穂のピークに比べれば広く散開でき300mほどの登山者もまばらに見え、それぞれ360°の大展望を満喫している。雪氷で研ぎ削られた凄じいほぼダイナミックなハッ峰を左横に見ながら岩塊の斜面に腰をおろす。正面には五竜～鹿島槍など後立山連峰がっつきなり、右に立山がそびえ、遠く槍ヶ岳が展望できる。

8月6日(日) 伝蔵小屋出発～6:29アノ部

快晴で迎えた剣岳登山、気温15℃の絶好日。まだ静かな小屋前よりの剣の岩場の感触が伝わってくるようだ。「今日は……そ……」朝食もトッパで済まし、伝蔵さんに おれを言っ て5:45出発、テントを横に見ながら17段の階段を登る。つやつやしたダケカンバ茂る尾根道を急登し、ハイマツ、ダケカンバと続く。5:34 豆頭に出ると大日三山方面が展望できる。一旦下って雪田を踏む。急登を切り切りと2600m頭に着く。雪田やお花畑とトランスする。白・黄・紫色の美しい草花と見上げる大岩壁を対比しながら 6:20 アノ部にく。南からのさわやかな涼風を受けてまたお花畑を登る。エボシ岩の左をかきこみ、接線の左側を登る。

伝蔵小屋到着

荷が軽いのと別山乗越まで行く覚悟で登ってきたので、コスト14.6時間半を休憩42分+歩行3時間43分で伝蔵小屋へ着く。然し、剣岳上部(2800m)はガスに包まれたままで寂然とし、これでは登頂しても張り合えない。明日は快晴間違いなく泊ることにする。

ビバーク跡～1800M標

ビバーク跡を過ぎると間もなく、左手に猫又～赤谷山などの緑の高峰が見えてくる。我々パーティを迎えてくれるウグイスの美しい鳴声に、区切りは悪いが、9:16～9:30まで休憩をする。

ゆるやかな、ときたま急登も繰り返しながら登るこの尾根道は、良く整備され安心して登れるのが嬉しい。高度表示杭も200mおきに建ててあり、気分的に安ど感がある。時々、ゴゼンタリバナ、黄色の小花を束ねた草花が目立つ。

16時半頃外へ出て写真をとる。ガスも取れてスッキリ晴水上がり、快晴の状態となる。ヤッパリ「明日は最高の日和になるぞ」と喜び合いながら剣岳を仰ぐ。岩壁は夕日に映えて薄茶色に輝き、這松が苔のように張り付いて青黒く見える。長次郎の頭・ジャンダルム・三ノ窓・小窓の王・頭・マッチ箱・ドム・小窓＝トール、小窓尾根が岩肌を露骨に現し、眺めるものを圧倒するように鋭く迫ってくる。

奥ノ平～ビバーク跡

奥ノ平より10分は平坦路だが、やかましくジージー鳴くセミの声を聞きながら、ゆるやかな道を登る。

7:15 振り返ると木枝の間より右下に馬場島キャンプ場が見える。この先道は杉の古木の間を縫っての急登の連続に入る。

1600m標を過ぎ、9:05 凹みにビバーク跡があり、道は3M中に刈り込んであるので有難い。急登と人木の間の道で、額から流れる汗を拭きながら高度を稼ぐ。

上市より登り口

上市よりバスに乗ろうとしたが、発車まで1時間20分もある。タクシーとあまり変わらないので、5人相乗りで馬場島に到着。剣岳はガスにあふわれ見えないが、早月川上流の大自然の景勝に恵まれたこのキャンプ場は、水場兼炊事場が2ヶ所もあって、よく整備されている。昔の冬山遭難記録で読んだことのあるゆるやかな長いこの早月尾根コースを「今日登るんだ」と、自分に言い聞かせながら、まだ静かな山麓にある「仰剣岳」や「試練と憧れ」と立派に刻まれた石碑を見て、右側の登り口に入る。

アノ部～頂上

6:32 アノ部よりの岩稜急登を登れば、キノコ、トリカブトなどが見られ、くさり場を通る。やがて尾根頭の稜線からハイマツの間の急登や、ロープの掛けてある砂岩の登りに入り、矢印に導かれながら、赤茶化した崩壊気味の登り下りを行う。7:17アノ部より、ひどく風化した無残な岩塊を越えて尾根の左側を垂直にさがるくさり場をジグザグに登りながら行く。獅子頭をかついで登り詰めると本峰列山尾根のアノ部に顔を出す。カノハサミと言われる箇所だ。7:33 くさり場を通過して剣沢からの縦走路に出て「ホッ」とする。剣沢側が見え、頂上はもう目の先だ。頂上の人の動きが見える。最後の頑張り、ピッチを上げて遂に剣岳頂上にある祠の前に立つ。参拝して空を見上げれば、雲一つ無い紺碧の空は夏山にはめずらしい。丁度7時40分。大展望を欲し、まさに誰の顔も喜びに満ちた感動が、満足感で一杯だ。

(注) くさり場は長さ短く、所々所があるが、横雪、凍結期以外は一度も利用しないで登れるが、崩壊中の岩壁に注意し、岩屑を落とさないよう注意する。

1800M標～避難小屋

1800m標からまた急登だ。陽がさし込んで暑い。大石を右から巻いて登ると、ダケカンバ、ツガがたっさりなってくる。伝蔵小屋1時間10分の道標付近で、剣岳頂上は相変らずガスで見えないが、裾の鞍部小窓・大窓が見えてくる。左手に凶面上の1920.7Mピークらしい高台が見えてくる。あの高台の上にはヒナン小屋があるから頑張りと言いつつピッチをあげる。高台を過ぎても小屋は見当らない。2000m標から平坦路となり、ゆるい登りに入る。8分も登ると、コンクリートの立派なヒナン小屋が広場の右手奥に見えた。＝「おれだ、おれだ」と言いながら、小屋の前で腰をおろして、めしやパンを食べる。

登り口～奥ノ平

取付点の道標には、松尾奥ノ平1000m、馬場島350mと表示されている。すぐ木段の急登から始まるこの尾根は「きついなあー」と話しながら、10数回ものジグザグをピッチをあげて登り切ると、14分で松尾奥ノ平へ着く。これより松尾奥ノ平までは、樹林の間のゆるやかな尾根道で朝の冷気が涼しい。

